

Newsletter

かながわと世界をつなぐ

第3号 2007.9.

特集 ▶

日本の中のアメリカ

2

知をめぐる対話シリーズ(2) :	
江藤裕之さん(長野県看護大学外国語講座准教授)	6
かながわのキーパーソン :	
鶴田光子さん(NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ))	9
秋期英会話講座開講	9
[KIF Report]	10
漫画家・作家たちの絵手紙 私の八月十五日展	
第7回湘南国際村青少年国際セミナー(K-PIT)「世界の入り口に立とう」 他	
[Event Schedule]	11
第5期(後期)シルクロード平山郁夫コレクション展(9/1~12/2)	
草の根国際協力応援バザー(11/25) 他	

特集

日本の中のアフリカ

8月25日からあーぢ 35まで企画展「A DAY IN THE LIFE OF AFRICA」が始まりました。100人のフォトジャーナリストたちが写した、アフリカ大陸の様々な場所の景色、人、生活の写真を展示しています。今回はその企画展に関連して、「日本の中のアフリカ」について特集します。多種多様な文化や民族を持つアフリカのすべてを伝えることはできませんが、企画展とは違った側面から「日本で出会うアフリカ」について考えます。



市場の女性たち
©2002 John Isaac From A day in The Life of AFRICA (Olympus 提供)

日本に暮らすアフリカ人

近くなりつつあるアフリカ

アフリカ(*1)と日本は距離的にも文化的にも遠い印象があり、アフリカのニュースを聞いてもどこか遠くの出来事のように感じてしまいます。アフリカといえば、広大なサバンナ、大自然と動物、砂漠のイメージが浮かんできます。新聞やテレビでもアフリカのニュースは、貧困、飢餓、紛争などの話題が多く、日本とは心理的にも遠く離れた場所として語られることが多いかもしれません。

しかし、ここ最近『ホテル・ルワンダ』や『ブラッド・ダイヤモンド』など、アフリカを舞台にした映画が数多く日本で上映され、話題になっています。また、ケニアの環境保護活動家でノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが日本でも活発に活動し、

「MOTTAINAI(もったいない)」という言葉が環境省で見直されるなど、注目を集めています。

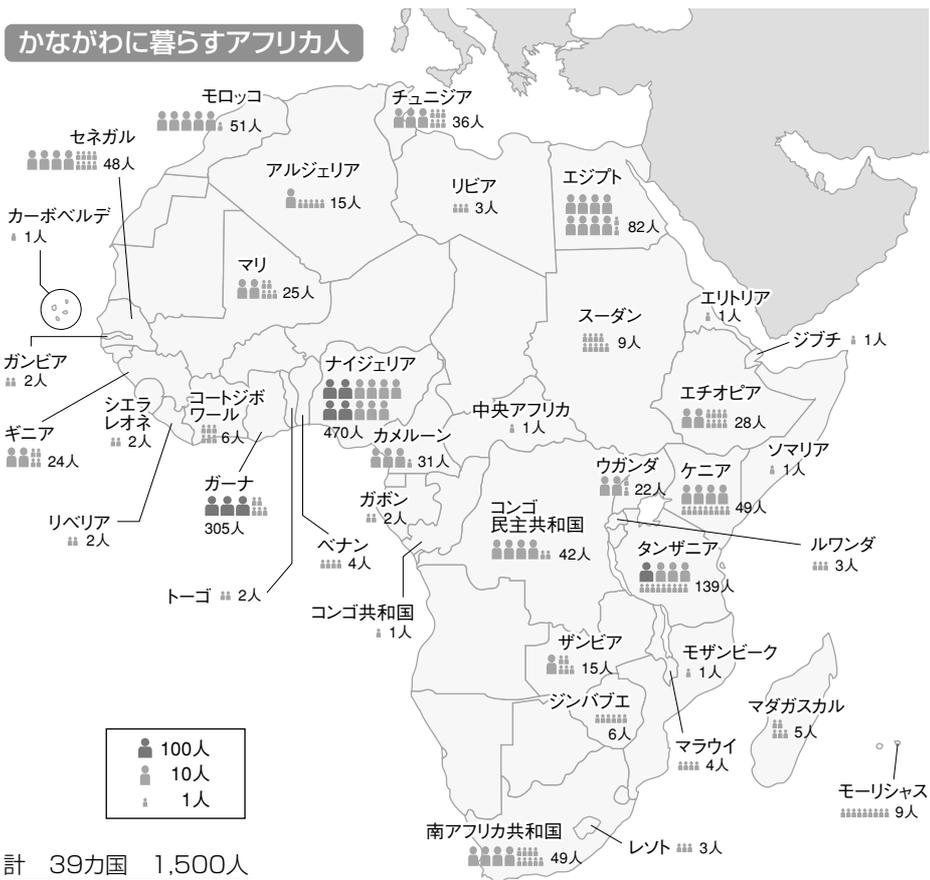
このように日本でも様々な場面でアフリカに触れる機会が出てきました。そこで、ここでは「日本のアフリカ人」と「アフリカの日本人」について探ってみました。

ナイジェリア人が最も多い滞在者

ではまず、どのくらいのアフリカ大陸出身のアフリカ人が日本に来ているのでしょうか。1年間のうち、アフリカの国籍を持つ人たちが新しく入国してくる数は、2006年で18,040人(*2)。最も多いのは、南アフリカ共和国出身者4,940人で、エジプト2,549人、ケニア1039人、ナイジェリア913人と続きます。在留資格別

では、短期滞在が13,740人と最も多く、それ以降は研修が1,555人、外交・公用1,227人と続きます。

以上は日本に入国してくる数ですが、実際にはどのくらいの人々が滞在しているのかを次に見てみます。法務省によるとアフリカ出身の外国人登録者は2005年末で10,471人。日本に滞在する外国人登録者200万人の0.5%ほどです。そのうち、国籍で見るとナイジェリアが2,389人で最も多く、ガーナ1,824人、エジプト1,366人、南アフリカ共和国564人と続きます。ナイジェリアとガーナを合わせただけでも全体の約4割、それにエジプトと南アフリカを加えると6割近くになります。ナイジェリアはアフリカで最も人口の多い国(*3)ですが、ガーナの人口は南アフリカ共和国の半分以下です。単純に人口の多寡だけが影響しているとはいえませんが、ナイジェリア出身者が多いのは人口が多いことも理由のひとつと考えられます。



日本人と結婚する人が多い?

在留資格を見ると、最も多いのは永住者2,088人です。その他、1年などの長期の在留資格では、日本人の配偶者等が2,010人、家族滞在1,333人、留学954人となっています。また、3ヶ月などの短期の在留資格では、全体1,890人のうち、観光が1,278人と最も多くなっています。

ナイジェリア出身者は日本人との配偶者等が779人で最も多く、3割以上の人は日本人と結婚しています。ガーナ出身者は永住者が最も多く、日本人との配偶者等、観光と続きます。エジプト出身者は家族滞在が圧倒的に多く、留学がそれに続きます。またエジプト出身者は、アフリカ出身者の中でも教授として来日する人が多くなっています。南アフリカ共和国出身者は学校の先生などの教育が比較的多くなっています。

アフリカ出身者の2割が日本人と結婚し、その2割のうちの約4割がナイジェリア出身者という数字になっています。また、日本に滞在しているアフリカ人の8割が男性です。さらにナイジェリア出身者の9割以上が男性です。そのため、アフリカ人男性と日本人

特集

日本の中のアフリカ

アフリカを舞台にした最近の映画

●『ホテル・ルワンダ』

原題：HOTEL RWANDA / 2004年 /
南アフリカ＝イギリス＝イタリア / 122分
出演：ドン・チードル、ソフィー・オコネドー、
ニック・ノルティ、ホアキン・フェニックス他
監督：テリー・ジョージ

●『ブラッド・ダイヤモンド』

原題：BLOOD DIAMOND / 2006年 /
アメリカ / 143分

出演：レオナルド・デカプリオ、ジェニファー・コネリー、
ジャイモン・フンスー他

監督：エドワード・ズウィック

●『ダーウィンの悪夢』

原題：Darwin's Nightmare / 2004年 /
オーストラリア＝ベルギー＝フランス / 112分
監督：フーベルト・ザウパー

●『ラスト・キング・オブ・スコットランド』

原題：The Last King of Scotland / 2006年 /
アメリカ＝イギリス / 125分

出演：フォレスト・ウィテカー、ジェームズ・マカヴォイ他
監督：ケヴィン・マクドナルド

●『ツォツィ』

原題：Tsotsi / 2005年 /
南アフリカ＝イギリス / 95分
出演：プレスリー・チュエニヤハエ、テリー・ペー、
ケネス・ンコースイ、モツスイ・マッハノー、
ゼンバンゴベ、ジェリー・モフケン他
監督：ギャヴィン・フッド

女性のカップルが割合としてかなり多いと考えられます。

アフリカの日本人

一方で、どのくらいの日本人がアフリカに滞在しているのでしょうか。外務省によると、2006年の永住者と長期滞在者を合わせた数は6,351人です(*4)。そのうち、最も多いのは政府関係の仕事で滞在している人たちとなっています。国別では、南アフリカ共和国が最も多く、エジプト、ケニアと続きます。南アフリカ共和国には民間企業との関係で滞在している場合が最も多く、ケニアでは政府関係者が比較的多く滞在しています。来日する人が多いナイジェリアに滞在する日本人は125人で、在アフリカ日本人のうち2%に満たない数になっています。

日本人でアフリカに滞在している人は全世界の

合計の0.6%で、ヨーロッパや北米、アジアと比べると日本からアフリカに行く人はやはりまだ少ないようです。

かながわのアフリカ人

最後に、神奈川県についての統計です。神奈川県には1,500人のアフリカ出身の人たちが滞在しています(*5)。ナイジェリア国籍が最も多く、その次にガーナ、タンザニアと続きます。アフリカ約50ヶ国のうち39ヶ国から来ています(左ページ参照)。アフリカ出身者は神奈川県外国人登録者数165ヶ国16万人のうち、人数では1%にも満たないのですが、国の数では24%を占めています。

以上、統計から日本、神奈川県に滞在するアフリカ人について見てみました。滞在者がナイジェリアやガーナ出身者のように多い国と1人だけの国と偏りがありますが、日本に滞在しているアフリカ人

は全アフリカ大陸約50ヶ国から来日しています。「アフリカ」と一言でいっても、東から西、中央から南まで多くの国があり、そこには多種多様な民族が暮らしています。一度、「日本の中のアフリカ」と出会ってみませんか?そこでは今までと違う新たなアフリカを発見できるかもしれません。

- *1 ここでは、アフリカ大陸とその周辺の島々を指します。法務省の定義するアフリカ地域に従います。
- *2 法務省入国管理局発表「平成18年における外国人入国者及び日本人出国者の概況について」の新規入国者数。新規入国・再入国者数を合わせた数は、26,142人。
- *3 ナイジェリアの人口は1億4,000万人(2007年、ナイジェリア政府公表国勢調査暫定結果、外務省ホームページより)。
- *4 外務省「海外在留邦人数統計平成19年版」。
- *5 神奈川県公表の国籍別外国人登録者数から算出(2006年12月31日現在)。

日本でアフリカを伝える人たち

横浜のアフリカ雑貨店オーナー

コフィ・エドウィン・マテさん(ガーナ出身)

ガーナ出身のコフィさんは、横浜でアフリカ雑貨のお店「アフリキコ」を経営しています。アフリカのこと、ガーナのことをもっと知ってもらいたいと思って始めました。イベントやバザーでアフリカの工芸品を販売して開店資金を貯め、5、6年前にオープン。コフィさんはアフリカで現地の人に商品をつくってもらい、それを購入して日本で販売しています。直接のやり取りでお金を払うことで、現地の人の現金収入にもなっています。

コフィさんと日本との出会いはコフィさんが小学生のとき。当時、コフィさんの小学校では海外の人との文通が流行っていました。友人の紹介でコフィさんも日本人と文通をするようになりました。文通相手から遠い日本のことを教えてもらうにつれ、日本への興味が強まっていったそうです。「世界は大きい。日本がどんなところか、目で見てみたかった」。コフィさんは30年経った今でも文通していたときの手紙を大事に持っていました。来日して10年以上経ちますが、その文通相手には会ったことがないそうです。

距離が遠いことやお金がかかることな



どの理由で、日本からアフリカに行く人はヨーロッパや北米と比べて限られています。それならば、「ドアの前にアフリカを持ってこよう」とコフィさんは様々な活動をしています。「アフリカンフェスティバルよこはま」もそのひとつ。2006年に第1回が開催され、来年の4月に第2回の開催が予定されています。コフィさんはその実行委員長です。

「アフリキコ」でアフリカからの商品を販売する傍ら、お店の脇にある部屋でジャンベ教室を開いています。アフリカの太鼓ジャンベの音が足元から体中に響き渡り、横浜でアフリカのリズムを感じられる場所です。

アフリカの絵・詩の創作とジンバブエの民族楽器ムビラの演奏でアフリカを伝える
ハヤシエリカさん(横浜市出身)

「アフリカへの旅が自分を変えた」。ハヤシさんは「神とつながる音」を奏でる楽器ムビラを演奏し、またアフリカの独特な文化や風景の絵を描いています。

アフリカへ旅立つ前、看護師として新生児救急治療室で仕事をしていました。そこで体の弱い子どもや障害のある子どもを看護し、先端科学の不自然さに疑問を持ち、「生きるとは、命とは何だろう」。そんな疑問を抱えて日本を飛び出しました。

アジア横断、アフリカ縦断、23カ国を渡り歩き、2003年に帰国。アフリカで、自分たちを生んでくれた祖先を崇拝する思想や、大自然の大地と一体になって生きる人間の根源的な部分に触れ、アフリカに暮らす人たちの「魂の明るさ、希望などのポジティブな面」を感じました。また、その旅で「人間はもっとシンプルに生きていける」と考えるようになり、自分が受取ったメッセージを伝えたいと思いました。

その後、アフリカをモチーフにした絵葉書を作り、イベントや路上などで販売を開始。紙芝居や音楽活動も始め、友人の紹介やそのつながりで徐々に活動を広げられました。最近ではムビラ・サークル「ムビラ



ハリの会」を立ち上げ、東京でムビラの演奏を教えています。また、創作活動では絵本『神とつながる音—アフリカ・ジンバブエのムビラ』の出版もしています。ソゴマ・ジャパニ(東アフリカNGOMA親交会)の理事でもあり、アフリカ文化の多様性を紹介する活動もしています。

「貧しさや紛争などアフリカのネガティブな面はテレビや新聞で伝えられるが、ポジティブな面は伝えられていないと思う。楽器や絵を通じて、アフリカの生きる知恵、自由と平和を日本で多くの人と共有していきたいと思っています」。

アフリカと出会う場所～神奈川近郊～

ファッション・音楽・アートからアフリカへの切り口は興味によっていろいろ。あなたのお気に入りを見つけてみませんか？

アフリキコ横浜店



本紙特集に登場しているコフィさんのお店。アフリカより直輸入した民族楽器・アクセサリ・ビーズ・布・衣装・雑貨の販売の他、ジャンベ教室も開催。(毎週土・日)はじめてコース13:00～14:30 初心者コース15:00～16:30 各回3,000円、ジャンベレンタル料1,000円

【DATA】

〒220-0073 横浜市西区岡野2-16-1 1F
(横浜駅徒歩約10分)
営業時間：11:00～19:00(不定休)
TEL：045-317-7890 / FAX：045-317-7643
E-mail：info@afrikico.co.jp
http://www.afrikico.co.jp/

ムビラ・ハリの会



ジンバブエで修行してきたハヤシさんによるムビラのワークショップ。歌・手拍子・ホーショウ(マラカス)、掛け声、ダンスなどムビラ音楽を彩るさまざまな要素を体験できる。[町田教室] 町田市民フォーラム / 月1回金曜日19:30～21:30 / 2000円 [谷中教室] 谷中カフェ / 月1回金曜日19:00～21:00 / 2000円+飲み物代
*初回参加者、ムビラレンタル(500円)が必要な方は要事前予約

【DATA】

ハヤシエリカさん
TEL：080-5034-7084
E-mail：erika_amu@yahoo.co.jp
http://www.hayashi-erika.com/

アフロ湘南

藤沢市湘南台を中心に活動。カラモコ・カマラさんによるジャンベのワークショップや、初心者も参加可能な自主練習会を毎月不定期に開催。ワークショップ3,000円、自主練習会100円
*ジャンベレンタル料500円(要事前予約)

【DATA】

ヒロさん E-mail:afroshonan@yahoo.co.jp
http://www.afroshonan.org/

en plus (オンプレ)

逗子に事務所を構えるウェブショップ。カンガや東アフリカのかご、木製品などを販売。エプロンなどカンガを使ったオリジナル製品などを取り扱っている。

【DATA】

E-mail:enplus_info@ybb.ne.jp
http://enplus.jp/

アフリカとつながるNGO

～アフリカともっと深い、新しいつながりを～

紛争、貧困、HIV/AIDSをはじめとする感染症など、アフリカは多くの困難を抱えています。国際協力に関心を持つ人たちの間でも、長らくアフリカは遠い存在でした。本来は豊かでパワフルなアフリカは、植民地化など様々な要因でその力を奪われてきました。困難の中にある人々が力を取り戻すために、アフリカと関わり、アフリカの人々とともに活動を積み重ねているNGOや、情報源をご紹介します。

●(特活)アフリカ日本協議会

食糧安全保障、感染症、紛争などに関する調査研究・政策提言、アフリカへの理解を促進するためのイベントなどを実施。日本で生活している在日アフリカ人とのネットワークも進め、在日アフリカ人ファミリーなどを対象としたイベントの開催や、HIV/AIDSなどに関する情報提供なども。アフリカ出身の方を含め、NGO活動実践者や留学生、研究者などの講師派遣の相談にも応じている。

【DATA】

TEL：03-3834-6902
http://www.ajf.gr.jp/

●アフリカ理解プロジェクト

グローバルマインドを持つ人材育成のため、学校や社会教育の現場でアフリカ理解を進める事業を展開。同プロジェクトが明石書店から出版する「見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ」シリーズ4巻は、楽しく魅力的な教材。

【DATA】

若松さん
TEL/FAX：03-3758-5665
E-mail：events@africa-rikai.net
http://africa-rikai.net/

●ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

ルワンダ共和国で障害者支援の活動を行うNGO。義肢装具の製作、巡回診療、スポーツ交流などによるルワンダの障害者の自立支援を、ルワンダの人々との協力のもと行う。2007年度からは隣の国ブルンジでも義肢製作を開始。

【DATA】

〒253-0054
茅ヶ崎市東海岸南6-6-69 吉田方
http://onelove-project.info/

2008年 第4回アフリカ開発会議 横浜で開催決定!

アフリカ開発会議(TICAD)は、国連や世界銀行と日本政府が共催で開催するアフリカの開発をテーマとした会議です。これまで1993年から5年に1回東京で開催され、アフリカ諸国、国際機関、欧米の援助国やアジア諸国などから1000名近くの参加者が見込まれるこの大規模な会議が、来年の5月28日から30日まで、横浜で開催されることになりました。東京以外の都市で開催されるのは今回が初めてです。TICAD開催にも関連して、かながわでもこれから多くのアフリカ関連の催しが行われる予定です。

(TICADに関する情報源)

●横浜市開港150周年・創造都市事業本部 戦略的産業誘致課
横浜でのTICADの開催を統括。関連イベントの情報なども提供します。
【DATA】TEL：045-671-3836
E-mail:ts-jigyoyuchi@city.yokohama.jp

●TICAD市民社会フォーラム(TCSF)

2003年開催の第3回アフリカ開発会議をきっかけにアフリカと日本の市民団体や研究者、国際協力の実践者によって設立された団体です。日本とアフリカの市民レベルでのネットワーク形成、日本の対アフリカ政策についての調査分析や提言、第4回アフリカ開発会議をNGOや市民の意見を反映し、具体的な行動を伴ったものにするための働きかけなどを行っています。
【DATA】TEL：03-5286-8261 E-mail：office@ticad-csf.net
http://www.ticad-csf.net/

「アフリカ2008キャンペーン」

第4回アフリカ開発会議とG8サミットを前に、日本でアフリカへの関心を高め、がんばるアフリカの人々の姿や声を日本の人たちに紹介するために、日本の人たちに紹介するために開始され、TCSFに事務局が置かれています。キャンペーンのキャッチコピー「アフリカ人の声を聞け」にあわせてアフリカの人たちの声を集めています。詳しくはホームページへ→
http://www.africa2008.jp/

本で出会うアフリカ

●『絵はがきにされた少年』

著者：藤原章生 出版：集英社

著者は毎日新聞の記者。本書では特派員で滞り時代に会い、取材したアフリカの人々の姿を伝える。メディアが流す情報や記事が一般に伝わるときにこぼれていく「何か」、その「何か」について丁寧に伝えている。その些細な事象が遠いアフリカに暮らす「人間の肌触り」を伝える。著者の人々に対する、また自分自身に対する誠実さが感じられる。アフリカの様々な紛争の背景を知るのうってつけの1冊。



●『DoDoWORLDNEWS どうどわーどにゆーす』

発行：道祖神

アフリカの旅と文化のフリーの情報誌。アフリカ関係の旬なイベントの最新情報やアフリカを扱っている本、映画の情報など見所たっぷり。旅行雑誌なのでアフリカへの旅行を考えている方にも勧め。奇数月発行。「映画の向こうにアフリカの今が見えてくる」「アフリカルチャーマップ」「アフリカの動物たち」など各号の特集も読みごたえあり。配布場所など詳細は下記ホームページで。



<http://www.dodoworldnews.com/>

●『見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ4 アフリカンアート&クラフト』

編集：アフリカ理解プロジェクト

発行：明石書店

「アフリカの人びとが暮らしのなかで、つくり、使い、身につけ、受け継がれるもの、そのなかにアートがある」。この言葉通り、ネックレスやサンダル、かごやビーズなど、日常的なものにあふれるアート感覚が素晴らしいバスケット工芸やビーズ装身具の作り方も紹介しており、気軽に手作りを楽しめるようになっている。『見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ』シリーズの最新作。これまで、『アフリカンドレス』『アフリカンキッチン』『アフリカンリビング』が発刊されている。



●『ゴードイマ短編小説集 JUMP』

著者：ナディン ゴードイマ/Nadine Gordimer

訳者：ヤンソン柳沢由美子

発行：岩波書店

小説の楽しみは、なんといっても現実に体験していないことをあたかも自分が経験したことのように体験すること。この小説では、南アフリカにおける様々な立場の人々の経験を体験することができる。右派の白人活動家が、アパルトヘイト反対派に投降する表題作のほか、難民の少女や、白人でアパルトヘイトに反対する活動家、あるいはその暮らしに何の疑問を抱かずに生活する南アフリカのブルジョワの暮らしなどの物語から、その人種間にある意識の相違と溝に初めて気づく。1991年女性として25年ぶりにノーベル文学賞



を受賞、代表作は『バーガーの娘』。この他、ノーベル文学賞を受賞しているアフリカの作家は…

○J.M.クッツェー『恥辱』(Disgrace) (2000年/鴻巣友季子訳/早川書房)

○ウオレ・シヨインカ『神話・文学・アフリカ世界』(Myth, Literature and the African World) (1992年/松田忠徳訳/彩流社)

●『カンガ・コレクション』

編集：織本知英子

発行：ポレポレオフィス

発売：連合出版



カンガとは、東アフリカ一帯で使われている布のこと。カンガの利用方法は、例えば赤ちゃんのおんぶ紐、洋服、スカーフ、水着、カーテンや壁掛けなどのインテリア…このカンガには一つひとつ意味が込められていて、自分の気持ちにあわせ、カンガを選ぶのだとか。この本ではそんなカンガの図柄と意味を解説してくれる。大胆な色彩感覚と構図をお楽しみください。

今月号の表紙の写真は…

KANGA (カンガ): スワヒリ語のことわざやメッセージが書かれた長方形の布のこと。鮮やかな色使いとユニークなデザインが目を引く。主に東アフリカで使われる民族布で、誕生は19世紀中ごろといわれている。カンガに書かれたメッセージを身にまとうことで、東アフリカの女性は自分の言いたいことをさりげなく主張するのだとか。表紙のカンガの意味は「POKEA ZAWADI YAKO」(贈り物をどうぞお受け取りください。/訳:ポレポレオフィス 織本知英子)

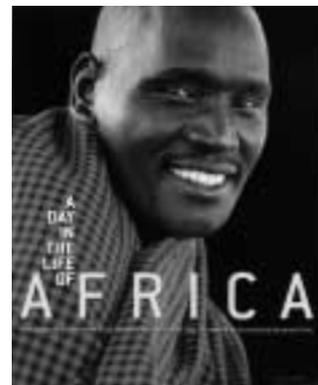
A DAY IN THE LIFE OF AFRICA 100人の写真家がみたアフリカの一展

本展覧会はアフリカの人々の力強い姿、日常風景を伝え、その写真からはアフリカの人々の息吹が伝わってきます。会場には写真展示の他、**あーぢ 35ぢ** 収蔵品のアフリカの民族衣装試着や民族楽器体験コーナーなども設けています。「A Day in the Life of AFRICA」は世界26ヶ国の著名フォトジャーナリスト約100人がアフリカ大陸の53ヶ国に分散し、アフリカ大陸全域のある1日の様子をそれぞれカメラに収めた一大プロジェクトです。現在地球上で最も多くの困難一貧困や紛争、HIV/AIDSなどを抱えているアフリカの危機的状況を多くの人に知ってもらうことを目的としています。

- 期 間：2007年8月25日(土)～10月8日(月・祝) 10:00～18:00 (金曜日は20時まで開館)
- 入場料：無料(祝日除く月曜休み)
- 場 所：**あーぢ 35ぢ** 3階 企画展示室

【関連イベント】 ◇写真家トーク
日 時：9月30日(日) 14:00～16:30
場 所：**あーぢ 35ぢ** 5階 映像ホール
講 師：ジョン・アイザック氏/五十嵐太二氏
進 行：写真展総合プロデューサー オリパス(株)松崎稔氏
参加費：無料

■問合せ：学習サービス課
TEL：045-896-2899 (祝日除く月曜休み)
FAX：045-896-2299 E-mail：gakushu@k-i-a.or.jp



©2002 Doug Menuet
A day in The Life of AFRICA
(Olympus 提供)

知をめぐると対話シリーズ(2)

当財団の学術・文化交流事業に関わった方々とのインタビューを紹介します。



「名著」と「器」～知的で豊かな人生とは

江藤裕之さん

(長野県看護大学外国語講座准教授)

「グレート・ブックス」「湘南国際村青少年国際セミナー」など、数々の財団事業に携わっていただいている江藤裕之さんに、本を読むこと、知的であること、国際人材の育成に対する思いなどについて、お話を伺いました。

人類の知的遺産

江藤さんには財団のグレート・ブックス事業^{*1}で大変お世話になりました。

グレート・ブックスとは、時代の風雪に耐えて現代まで読み継がれてきた名著、繰り返し読むに値するような、時代を超えた人類普遍のテーマが語られている名著の総称です。「人類の知的遺産」とも言えると思いますが、どの本をグレート・ブックスとするかという認定組織があるわけではなく、それぞれの社会や個人によって異なります。もし自分の本棚に、何度も読み、そのたびに深い気づきをもたらしてくれる本があれば、それがその人にとってのグレート・ブックスと言えるでしょう。

アメリカでは戦前から、モーティマ・アドラー博士らによって「西洋版」グレート・ブックスのリストが作成され、それらの本にもとづいた対話型のセミナーが実施されてきました。グレート・ブックス・セミナーは、司会者(モデレーター)を中心に参加者同士が本の内容に基づいて「良い質問」を投げかけあい、対話を通じてその本が語りかけているテーマを深く理解しようというものです。話し合いのプロセスの中で参加者に深い気づきが生まれたりすることを、俗に「筆者の魂が想起される」と言ったりします。つまり、今は亡き過去の賢人たちと、その著書を通じて対話できるというのが、グレート・ブックス・セミナーの醍醐味ですね。

グレート・ブックス・セミナーを日本でも始められたのですね。

実践女子大学教授の松田義幸先生の呼び

かけで、アドラー博士のプログラムを補完する形で「東洋版」グレート・ブックスのリストを作ってみようというお誘いを受け、いろいろな文献や、世界の名著、日本の名著などを検討しました。また、リストの作成と共に、日本でもグレート・ブックス・セミナーを実践してみようということになり、第1回目のセミナーを1999年の11月に行いました。これは大学生が対象で、アドラーが実際に行ったのと同じテキスト、プラトン『ソクラテスの弁明』、アリストテレス『政治学』、ルソー『社会契約論』、マキャベリ『君主論』、アメリカ合衆国独立宣言、ソフォクレス『アンティゴネー』を使いました。このプログラムはさすがによく練られていて、アメリカの自由と民主主義を考えるとこのコンセプトがしっかり見え、さらにこの背後には「自然」と「人為」の対立があるのかなとピンとききました。

セミナーでは、私は進行役であるモデレーターを務めたのですが、これが本当に難しかった(笑)。アメリカでは、他人を押しつけてでも自分の意見を主張する人が多いため、モデレーターはまさしく字の通り場をモデレートする(和らげる)のが役割です。しかし、人前で自分の考えを堂々と述べたり、意見が異なる人と話し合うことに不慣れた日本人には、この手のセミナー運営は簡単ではありませんでした。参加者の発言がないまま数分が過ぎると、会場の雰囲気为重くなります。それをなんとか盛り上げようと発言すると、「モデレーターがしゃべりすぎ」と言われて(笑)。日本でのグレート・ブックス・セミナーの場合は、参加者の発言をどれだけ引き出せるかがモデレーターに求められる能力かもしれませんね。

その後も何度かセミナーを開催し、多くの方々のご参加をいただきました。嬉しいことに、そのときの参加者や傍聴者により、さまざまな形でグレート・ブックス・セミナーが発展し、現在では

*1 グレート・ブックス事業

1996年度から「名著と学び」研究プロジェクトとしてスタートし、1999年には研究成果を叢書「グレート・ブックスとの対話」として出版(財団のホームページ上で全文が閲覧可能)。2003年度までに大学を対象とする同セミナーを計5回開催。現在、財団主催でのセミナーは行っていないが、神奈川県立図書館など県内各地でグレート・ブックス・セミナーが行われている。

<http://www.k-i-a.or.jp/>

shonan/publication/greatbooks/index.html



NPO(非営利組織)の創設や、図書館でのセミナーも始まりました。現在、インターネットで「グレート・ブックス」を検索してヒットするもの大半は、財団で開催してきたグレート・ブックス・セミナーがきっかけとなって生まれたものと言っても過言ではないでしょう。

知的な感動体験

江藤さんには財団の高校生世代を対象とした国際セミナーで講師をお務めいただいておりますが、「国際人」の育成とグレート・ブックスは関係あるものでしょうか。

2005年から湘南国際村青少年国際セミナー(K-PIT)*2で講師を務めていますが、実を言うと「国際人」という言葉はあまり好きではありません。なぜなら、本当は「国際人」なんていう実体はないですからね。やはり一個の人間として尊敬されるようになるというのが、国内外を問わず社会で活躍する人材の基本だと思います。

私のプログラムは、「目に見えないものを考えよう」というテーマで、ものを見る目、考える視点、それをどう表現するかというコミュニケーション技術などを学ぶ時間となっています。テキストには『星の王子様』、最近のものでは『博士の愛した数式』、そしてこの方面の古典的名著であるプラトンの『メノン』なども使っています。

これは、いわゆる「国際」をテーマとした類似のセミナーと比べて、かなり異質なことです。「南北問題」や「異文化理解」にもっと時間を割くのが一般的ですよ。しかし、その人が将来海外で活動をする、しないに関わらず、ものごとの本質を考えること、つまり「～とは何か」を問うことは、万人にとって非常に大切なことだと思います。私は、若い世代にそういったことを考える機会を提供したいと強く思っています。残念ながら、セミナーでは時間的な制約があり、じっくりと話し合う時間はありません。それでも、受講している生徒を見ていると、手ごたえをピンピン感じます。多くの生徒が「こんな頭の使い方をしたのは初めてです」と、目を輝かせながら話してくれます。知的な感動体験は、その後の人生を変えるくらい力があるのだと思います。

また、K-PITがきっかけで、神奈川県内の高校でグレート・ブックス・セミナーを実施する機会が増えました。いつも感じるのは「後世畏(おそるべし)」ということです。例えば、プラトンの『メノン』は高校生にとって難しいテキストだと思いますが、本当に正確に読み込んでいるなど感心したり、高校生でそんなことまで知っているのかと驚いたりします。ですから、高校生が対象のプログラム

は若干レベルが高くても、基本的に知的であるべきだと感じています。「楽しい」ことはよいのですが、それはあくまでも“Interesting”であるべきで、“Funny”の要素が強すぎるものは疑問です。

もちろん、誰もが勉強を好きになれるわけではない。しかし、学んだり、考えたりするのが得意で好きな子どもたちも多くいるはず。そういった生徒や学生を何とかもっともっと伸ばしてあげたいですね。私自身もまだまだですが、そういう気持ちは強いです。

最近ではインターネットの普及によって手軽に情報を得られるようになりました。その結果として、大学生などはあまり本を読まなくなってきていると言われていますが。

今や、本という活字媒体で得る情報は初期情報ではあり得ません。最初の情報はテレビやインターネットで得る時代です。極端に言えば、現代は日々生きる上では本を読まなくても何も困らない時代なのです。

しかし、これは今の時代に限ったことではなく、いつの時代も本を読まなくとも生存には困らなかったことに注目してください。つまり、本を読む人々はもともと少数でしたが、自由時間の増加にともない読書人口が増加していったのです。100年前に日本に大学ができたころ、少数のエリート読書人階級が大学に行きました。彼らは本を読んだのです。しかし、大学生の人数が増加した結果、読書をしない人でも大学へ行けるようになった、というだけのことだと思います。本を読む絶対的な人数は、100年前と比べてむしろ増加しているのはいいでしょうか。

確かに、情報の得やすさはインターネットが勝っているかもしれませんが、それ以外の価値、すなわち繰り返し読んだり、ものを考えたりするといった性質こそ読書の本質だと思います。

人格をつくる読書

「繰り返し読む」、「ものを考える」ことは、「教養を身につける」ことにつながるのでしょうか。

「教養」という言葉の定義は難しいですが、内面を鍛えるためには、優れた先達に学び、そして、その学んだことを自分で徹底的に考えることが必要でしょう。『論語』にあるように、「学びて思わざれば則ち罔(くら)く、思うて学ばざれば則ち殆(あやう)し」ですね。

また、「情報」と「知」は区別しなければいけません。“Information”と“Knowledge”は違います。ですから情報を仕入れるために必要な読書と、知性を磨いたり、人格を形成したりする



*2 湘南国際村青少年国際セミナー
2004年度より次代を担う国際人材の育成を目的として開催。現在までのべ150名を超える高校生が受講。参加型学習とグレート・ブックスのプログラムを導入し、意見交換型、発信型のセミナーとなっている。
<http://www.k-i-a.or.jp/shonan/work/k-pit/index.html>



ための読書は本来異なっています。それらが活字を読むという行為の中で混同される今だからこそ、繰り返し読むに値する本、つまりグレート・ブックスを大切にしなければならないと思います。

知的であるというのはどういうことでしょうか？

「知的」の英訳には“Intelligent”と“Intellectual”の二つがあります。“Intelligent”は偏差値的な頭の良さみたいなもの。一方、“Intellectual”は洞察力や直観力のようなものです。そこで、人間が心を開いて無心になり、本質を「心の目で見る」ような“Intellectual”な人間になる、またはそういう生活をするというのが「知的な豊かさ」ではないかと思えます。

知的な豊かさの実践には修道院のようなところがいいですね(笑)。日常の雑事とは少し距離をおいて、折り、かつ働き、自分の心に耳を傾ける。知ることの喜びや考えることの喜びを感じ、その日常から知識に対してあこがれを持ち、それに価値を置くような生活です。その背後には人間性豊かに暮らしたいという欲求があります。そういった大局的なものの見方が凝縮されたのがグレート・ブックスとそのセミナーとも言えるでしょう。

本を読むのは手段ですが、「ことば」でしか伝えられない良さがあります。私は、活字メディアはこれからもなくなるだろうと思います。その理由は、「ことばの力」です。これまでの人類の歴史から見ても、「ことばの力」で書かれたものだけが後世に残っています。「ことばの力」の背後にはメッセージがあるからです。

最近、「資格」や「スキル」といった言葉がよく目につきますが、グレート・ブックスを読むことは、スキルよりも大切なものを育むのですね。

ビジネス書の中には、リーダーシップや戦略的思考を身に付ける手段として「古典名著を読む」ことを推奨しているものがあります。もちろん、それもよいとは思いますが、行為の背景には現実の仕事に活用するために本を読もうという意図があるわけです。しかし本来のあり方として、名著が社会人のスキルアップに役立つものであるとは限りませんし、むしろそれとは正反対のあり方ではないかと思えます。

『論語』には「君子は器ならず」という言葉があります。「器」は特定の用途に使うことを意味しています。簡単に言えば、指導者はある特定の事柄のスペシャリストではなく、全体を俯瞰できるジェネラリストであれということです。「役に

立つ」、「使える」というのは、ある限定された社会的な価値観の枠の中で計られる基準です。それに対しグレート・ブックス的なものは、人間本来の生き方や考え方を基本にして物事の価値基準を導き出すものです。特定の「器」として使えるかどうかという問題ではありません。

つまり、「英語が話せる」、「仕事が速い」といったことと、人格が立派であることとは、カテゴリーが異なるわけですね。今の世の中はすごく専門化していて、「器」としての貢献が強く求められます。便利なこと、役に立つことは大いに結構ですが、それに加えて人間として豊かに生きていくことにもフォーカスする必要があると思います。そのための手法としてグレート・ブックスを読み、心で著者と対話することを紹介していきたい。

仕事のときは、一つの器として自分の役割を果たさなければなりません。余暇のときにはそういった仕事のものから精神的に離れてよいわけです。だれにも邪魔されない1時間を得たとき、それをどう使うかがその人の価値につながるのだと思います。そのとき、「できる人」になるためのノウハウ本を読むのも結構ですが、仕事から離れて、全く関係のない本を読んでも良いのだと言いたいですね。

経済的な基盤が安定している「財団」には、こういった観点から、経済原理とは異なる尺度で事業を展開してほしいですね。10年や20年といった長いスパンでの人材育成や、長期的かつ包括的な研究をしてほしいと思っています。期待しています。



▶プロフィール

江藤裕之(えとう ひろゆき)

長野県看護大学外国語講座准教授。1963年生まれ。専門は言語学(言語学史、史的意味論)。上智大学外国語学部英語学科卒業後、同大学院にて社会学、英語学の修士課程を修了。その後、米国ジョージタウン大学に留学。同大学よりPh.D.、また上智大学より博士(文学)を取得。

▶関連図書

—「もっと知りたい、勉強したい」という方に

江藤裕之〔最近の著作から〕

『国境を越えた源氏物語』(共著)PHP、2007年。

『看護・ことば・コンセプト』文光堂、2005年。

『古事記が語る原風景』(共著)PHP、2004年。

『聖書の言葉・詩歌の言葉』(共著)

PHP、2001年。

『グレート・ブックスとの対話(ダイアローグ)

—学習社会の理想に向けて』(共著)

K-FACE叢書、1999年。

▶インタビューを終えて

人類の英知の結晶ともいえるグレート・ブックス。10年以上前にこの研究を始めたときからお話になり、研究のためにアメリカの大学にまで行ってくださった江藤さん。そのやわらかな語り口と聴衆の心に染み込むようなお話しは、高校生からご年配まで幅広い人気を誇ります。江藤さんの言葉の端々からは、膨大な知識に裏打ちされた含蓄の深さがにじみ出ていました。「仕事ができること」と、「一人の人間として豊かな人生を送ること」が必ずしもイコールではないという当たり前の事実、改めて気づかされたインタビューとなりました。

(インタビュー:安藤智孝)





かながわのキーパーソン

医療通訳者を派遣するNPOの理事長

鶴田光子さん NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)



つるた・みつこ
ソーシャルワーカーとして長く病院に勤務。現在、
静岡英和学院大学教授。2007年度よりかながわ
民際協力基金審査委員。

NPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)は、病院からの依頼に応じ、日本で暮らす外国人と医師の間で通訳をする「医療通訳者」を派遣している。

鶴田さんは「自分はみんなが働きやすくする調整役」という。鶴田さんが理事長に就任した当時、MICかながわは設立5年が過ぎ、組織として内部のシステムも整いつつあった。そんな中、「組織のメンバーを引っ張っていくタイプではなく、それぞれ

光の当たりにくい狭間に落ちている人たちに光を当てる

の能力を引き出してまとめていくタイプが求められていたのではないかと

そんな鶴田さんは、民間会社勤務、病院のソーシャルワーカー、大学の教員など、様々な仕事に携わってきた。それは「普通の人としての感覚」で考えることができる素地になっている。日本社会では、まだ外国人を受け入れることに対する意識や関心は薄い。もうひとつの役割は、「今まで外国人の問題に全然関心の持っていなかった人たちに伝えること」と考えている。

医療通訳に関心を持つようになったきっかけは、ある印象的な経験だった。くも膜下出血で意識不明になった患者の妻が通訳と一緒に来ていたが、通訳ばかりが話し、医師の言葉をその妻の女性にはほとんど通訳をしていなかった。女性はうつむいて、暗い顔で黙っているばかりだった。鶴田さんは不審に思い、他の通訳者を探して通訳をしてもらった。すると、その女性はしっかりとした表情になり、はっきりとした口調で話し始めたという。それを見て、「ち

ゃんとした通訳は人間の尊厳を守るものだと実感した」という。

鶴田さんはMICかながわにかかわると同時に、大学で社会福祉やソーシャルワークを教えている。自分が担当しているゼミでは学生に対し、「誰が福祉が一番必要としているかを探しなさい」と指導している。「普通の人の感覚」では関心を持たれない人たちが、実は一番支援を必要としている人たちなのではないか。そして、「光の当たりにくい狭間に落ちている人たちに光を当てる」ことこそが真に人の役に立つ仕事になると教える。

鶴田さんが受け持つ学生の多くは、困難を抱えている外国人に今まで接したこともなく、考えたこともない。そのため、鶴田さんはまず関心を持ってもらうことが重要だと考えている。授業の中でときおり外国人の抱える悩みや問題について触れたりすることで、一人でも二人でも関心を持ってくれればと思っている。

秋期英会話講座

アメリカ・メリーランド州から招聘した講師を中心に右の内容で英会話講座を開講します。この講座では、ディスカッションやペアトークなどを通して、異文化コミュニケーション能力を身につけます。また、身近な話題から文化や考え方の多様性についても英会話を通して楽しく学びます。無料の体験レッスンも行いますので、ぜひお気軽にご参加ください。より詳しい情報はホームページをご覧ください。



「テーマで学ぶ初級英会話」
受講生募集
詳細はイベントすけじゅーへ

	火		水		木		金		土	日
10:30 ↓ 12:00	火1の基礎 下村	火1の初級SP リビー	水1の中級 ジョエル		木1の初級 ベル	木1の上級SP リビー	金1の初級 リビー		土1の特A リビー	振替クラス 浜田
13:30 ↓ 15:00	火2の中級SP リビー		水2の初級 ジョエル		木2の中級 ベル	木2の上級 リビー	金2の初級 ベル	金2の初級 リビー	土2の上級 リビー	
15:30 ↓ 17:00			水3の初級 ジョエル						土3の中級 リビー	
18:30 ↓ 20:00	火4の中級 ベス		水4の中級 ジョエル	水4の初級 ベス	木4の上級SP ウェスリー	木4の初級 ベス	金4の初級 ベル			

取替授業曜日

期 間：2007年10月2日(火)～2008年3月8日(土)
(各クラス週1回全18回、予備日を含む)
講 師：リビー、ベル、ジョエル、ベス、
ウェスリー、下村、浜田
振替制：欠席した授業のうち最大3回まで
振替クラス(定員12名)に振替可能
対 象：16歳以上
定 員：通常クラス：12名(7名)
セミプライベート(SP)クラス：6名(4名)
プライベートクラス(特A)：3名(2名)
会 場：あーさー 1階 研修室A、B

費 用：

	非財団会員(税込)	財団会員料金(税込)
通常クラス (基礎、初・中・上級)	42,900円(一般) 41,400円(学生)	39,900円
SPクラス (初・中・上級SP)	62,850円(一般) 61,350円(学生)	59,850円
プライベートクラス (特A)	82,800円(一般) 81,300円(学生)	79,800円

○上記の他、教材費(3,000円程度)が必要なクラスあり。
○申し込み時の同時入会も可能。
その場合、会員料金が適用。

- ◇お申込み方法：電話、Fax、Email、ご来館のいずれかでお問合せください。
①お名前、②ご住所、③お電話番号、④ご希望のクラスを伝えてから、⑤レベルチェックのご希望の日時をご相談ください。
- ◇レベルチェック：新規お申込みの方を対象、毎週火木土の13時半から、または火木の18時半から(30分程度)
- ◇お支払い方法：お申込み後1週間以内に窓口か、振込みでお支払いください。SPクラス、プライベートクラスは契約成立後、8日間以内はクーリングオフが適用され、8日間を過ぎても中途解約ができます。
- ◇お申込み／お問合せ：国際協力課(ふじわけ、森田)
Tel：045-896-2964 / Fax：045-896-2945 / Email：minsai@k-i-a.or.jp (件名「英会話講座」)

KIF Report

財団が行う様々な事業を報告します

6月23日～7月29日 6-7 35c

漫画家・作家たちの絵手紙 私の八月十五日展

総勢127名の漫画家や作家たちが体験した戦争を絵と文章で表現した作品を展示しました。作品の展示の他、漫画家の森田拳次氏のトークや戦争経験者の戦争体験のお話も同時に行いました。

70代、80代の戦争経験者の方から小学生まで幅広い年齢の方々にご来場いただきました。「当時のことを思い出しました」「戦争の話を知ることができて、よかったです」といったご意見をいただきました。



戦争体験のお話の様子

7月25日 横須賀市教育研究所

国際人材育成指導者養成講座 地球市民学習リーダー セミナー地域開催

地球市民学習を実践する能力を育成するため、地域の教育委員会と協力して地球市民学習リーダーセミナーを、横須賀市で開催しました。今回はかながわ開発教育センターの木下理仁氏を講師として、横須賀市の小中学校の先生を対象にワークショップを行いました。

ワークショップでは、クラスにいる外国籍の児童が突然学校に来なくなったという状況を想定し、その児童がなぜ来なくなったのかを探る過程で、外国籍児童の抱える悩みや課題について考えました。実際に外国籍児童をクラスに持つ先生は「自分自身の児童への接し方を振り返って考えることができた」という感想もありました。

セミナーの様子



7月26～28日 かながわ女性センター(藤沢市江ノ島)

第7回湘南国際村青少年国際セミナー(K-PIT) 「世界の入り口に立とう」

7月26日(木)から28日(日)までの2泊3日、かながわ女性センターにて第7回湘南国際村青少年国際セミナー(K-PIT)を開催しました。

K-PITは神奈川県内の高校生世代を対象とした国際学の入門セミナーで、「グレートブックス」や「開発教育」などを通じて様々な「気づき」を促し、物事の本質について考えるトレーニングを通じて、複雑・多様化する国際社会を生き抜く力を養うことを目的としています。

今回のセミナーは参加者12名という少人数ゆえのアットホームな雰囲気の中、参加者相互に、活発なコミュニケーショ

ンが図られ、「地球市民と食」、「子ども・教育」など、国際社会の諸問題について積極的な議論が交わされました。また江ノ島というロケーションを活かしたビーチクリーン活動を通じて、地球環境問題に対する体感的な「気づき」が得られるプログラムも導入しました。

今回の第8回K-PITは、9月29日(土)、30日(日)の2日間、明治学院大学横浜キャンパス(横浜市戸塚区)にて開催いたします。

URL : <http://www.k-i-a.or.jp/shonan/work/k-pit/index.html>

セミナーの様子



Event Schedule

イベント すけじゅーる

9月1日(土)～12月2日(日)

第5期(後期)シルクロード平山郁夫コレクション展 悠久のシルクロード

～ウズベキスタン陶器の魅力～

第5期(後期)シルクロード平山郁夫コレクション展では、平山郁夫シルクロード美術館のコレクションのなかから、ウズベキスタン原産の陶器類に焦点をあて、遙か彼方、シルクロードのオアシス都市を鮮やかに彩ったイスラム美術の魅力を紹介いたします。鮮やかな色調と独創的なデザインを特長とするウズベキスタン陶器の伝統を後世に繋げるため、激動する社会情勢の渦中にあっても、創作活動の存続を叶えた現代のウズベキスタンの作家による生命力溢れる作品の数々をご鑑賞いただけます。

■日 時：9月1日(土)～12月2日(日)
(月曜休み。祝日の場合は翌日)
10:00～17:00(入場は16:30まで)

■場 所：湘南国際村センター1階展示室

■参加費：一般300円、団体・65歳以上200円、
高校生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料

■監 修：(財)平山郁夫シルクロード美術館

■問合せ：TEL：046-855-1823(会期中)

毎週土曜日午後2時からギャラリートーク。9月23、10月14、28日の午後2時からサロンコンサート(先着30名)を開催します。

9月25日(火)～12月4日(火)

テーマで学ぶ秋の初級英会話



この講座は、講師の母国の文化を題材に、習慣や考え方の多様性について「英会話」を通して楽しく学ぶ講座です。毎回テーマを決めて英会話を楽しみます。英会話にあまり慣れていない方でも安心してご参加いただけます。英国の文化に興味のある方、気軽に英語のおしゃべりを楽しみたい方にお勧めの講座です。

■講 師：Jonathan Lynch (ジョナサン・リンチ)
麻布大学英語専任講師

■日 時：9/25、10/2、10/9、10/23、10/30、11/6、11/13、
11/20、11/27、12/4(全て火曜日)
18:30～20:00

■場 所：神奈川県国際学生会館・淵野辺 1階・研修室
神奈川県相模原市鹿沼台1-10-22
(JR横浜線「淵野辺」駅南口より徒歩3分)

■定 員：10名(最小実施人数5名)

■対 象：初級者(英語で簡単な文を話せる方)

■料 金：受講料 21,000円(税込)○財団会費 3,000円(一般会員)または1,500円(学生会員)(会費は非会員の方、もしくは会員の方でも有効期限が講座開催全期間を満たさない方のみお支払ください。)

■問合せ：国際協力課

TEL：045-896-2964

FAX：045-896-2945

E-mail：minsai@k-i-a.or.jp(件名「英会話講座」)

10月21日(日)

ワールドカルチャーデイ (ネパールディ)

10月のワールドカルチャーデイは、「ネパールディ」。今回は、当財団とフェアトレード団体ネパリバザーロが共催して開催します。

○おしゃべりワールド14:30～15:45 5階・国際理解展示室

○公開セミナー「私たちにできること：国際協力フェアトレード」13:00～15:30・映画「With...若き女性美術作家の生涯」、フェアトレード・ファッションショー、セミナー「教育現場から見えるもの：体験から実践へ」など、楽しみながら国際協力やフェアトレードの活動がご理解頂けます。5階・映像ホール(セミナーの参加のみ資料代500円・要予約)

○スタンプラリー 素敵なプレゼントが当たります。

○その他、ネパール・ディとして写真展や演奏会など様々なイベントを開催します。(10:00～17:00)

■日 時：10月21日(日)

■問合せ：学習サービス課 TEL：045-896-2899

*公開セミナーの参加についての申込み・問合せ：

ネパリ・バザーロ

TEL：045-891-9939

FAX：045-893-8254

E-mail：common@nbazaro.org

11月25日(日)

草の根国際協力応援バザー

今年もNGO活動支援のためのバザーを開催します。売上げは、すべて「かながわ民協協力基金」への寄付金とし、NGO活動への助成のために使わせていただきます。皆さまのご来場をお待ちしています(入場無料)。

■日 時：11月25日(日)11:00～14:00

■場 所：あーだ 35c 3階 企画展示室

【物品提供受付】

今回のバザーで販売する物品の寄付を募集しています。食品(保存のきくもの)、楽器、玩具(ぬいぐるみを除く)、雑貨など。品物は、9月1日～11月20日の間に、国際協力課まで持参、又は宅配便でお届けください(恐れ入りますが宅配便の場合は送料のご負担をお願いします)。なお、古着、書籍、ぬいぐるみ、暖房器具等は受け付けていませんので、ご了承ください。

【ボランティア募集】

品物の仕分け・値札付け(11月20日～11月23日、2時間以上お手伝いいただける方)や、当日の販売(11月25日10:00～15:00)のボランティアを募集しています。ご協力をお願いします。

■問合せ：国際協力課(担当：富本)

TEL：045-896-2964

FAX：045-896-2945

E-mail：minsai@k-i-a.or.jp

●かながわ国際交流財団は・・・

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切にした国際交流・国際協力、地球市民意識の高揚と多文化共生社会の実現、国際的な人材の育成、学術・文化交流並びに情報発信などの様々な事業を展開しています。

●会員になりませんか？

財団の活動を支える会員を募集しています。

会員になると・・・

- ・財団が主催する各種催しを掲載した情報紙をお送りします。
 - ・当財団の出版物の割引サービスが受けられます。
 - ・会員の方を対象にした催しへご招待します。
 - ・会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。 など
- *会員登録をご希望の方は、財団までお問い合わせ下さい。振り込み用紙など関係資料をお送りします。

- ★当財団は、2006年4月より、神奈川県から指定管理者の指定を受け、**あーぢ 35ご**を運営しています。
- ★このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。



JR根岸線「本郷台」駅改札出て左すぐ



湘南国際村学術研究センター

読者のみなさまからの投稿を募集しています。

原稿(800字程度)をFAXかメールで情報紙編集係までお送りください。紙面の都合で編集する場合、掲載できないこともあります。予めご了承ください。

かながわ国際交流財団ニュースレター 2007年9月1日発行 第3号

発行/財団法人かながわ国際交流財団(本部)
〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1 あーぢ 35ご 1F
TEL:045-896-2626 FAX:045-896-2945
URL:http://www.k-i-a.or.jp
E-mail:minsai@k-i-a.or.jp
印刷/文明堂印刷株式会社

バスでお越しの場合

JR横須賀線「逗子」駅前1番乗り場より、16または26系統「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター前」下車。所要時間約25分 料金340円

広告を掲載しませんか？

各ページに広告を掲載するスペースを設けています。県内で国際協力・国際交流の活動を展開している市民活動グループをはじめ、図書館、公民館、パスポートセンター、県立高校、市町村国際担当部署、市町村教育委員会、市町村区役所、県庁、会員などに配布しています。発行部数は6,000部です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

編集
後記

ニュースによると今夏北極の氷が過去最小となり、しかも3年前と比べて日本列島4個弱分も小さくなったそうです。将来はなんと北極が無くなってしまおう!? 小さい頃から地球の端っこの北極と南極はとっても寒いところと思ってきた私にはショックです。このニュースでこまめに節電しようと改めて感じました。(も)

【広告】

人 + 人 = JICA ボランティア

世界の人とつながろう。体験しよう、言葉を超えたコミュニケーション。



この子どもはどこの子？答えは説明会会場にて！

青年海外協力隊説明会

- グリーンホール相模大野 10月 2日(火) 19:00
- JICA横浜(桜木町) 10月14日(日) 14:30
- 藤沢市民会館 10月25日(木) 19:00
- かながわ県民センター 10月31日(水) 18:00

シニア海外ボランティア説明会

- かながわ県民センター 10月 4日(木) 18:30
- JICA横浜(桜木町) 10月14日(日) 10:30
- グリーンホール相模大野 10月 29日(月) 19:00

<p>青年海外協力隊 シニア海外ボランティア 説明会に足を運んでみよう! 経験者が相談にのります、あなたの疑問に答えます!</p> <p>お問合せ JICA横浜 ボランティア担当 045-663-3219 jicayicp-vol@jica.go.jp</p>	<p>募集中</p>
<p>お問合せ JICA横浜 ボランティア担当 045-663-3219 jicayicp-vol@jica.go.jp</p>	

応募期間 **10月1日～11月9日**
さまざまな情報があなたをサポート→www.jica.go.jp